

Company Newsletter  
Terrace HLDGS

2025.12

# TERRACE TIMES



巻頭特集 ひろぎんホールディングス・部谷俊雄社長との対談

街づくりは、  
皆が同じ方向を  
見据えてこそ

## 解体今昔

桑原組が手掛けた建築物の  
「今」と「昔」を巡る

ART BORN  
HIROSHIMA  
×  
LIBERA TERRACE  
店内にアート作品掲示中

会社HP  
リニューアル  
大規模改修いよいよ始動

広報室リポート  
奔走した日々の報告

事業部コラム  
テラスHD各事業部からの近況報告



巻頭特集

ひろぎんホールディングス

## 部谷俊雄社長との対談

(聞き手 広報室)

@ひろぎん  
ホールディングスひろぎんホールディングス  
社長部谷 俊雄  
(へや・としお)慶大商卒。1983年広島銀行入行、  
16年取締役常務執行役員を経て、  
18年頭取。20年より現職。65歳。  
広島市生まれ。

地域金融機関として、広島都市成長や地域活性において強い影響力を持ち続けるひろぎんホールディングス(HD)。近年は開発といった街づくり支援や地域ファイナンス、不動産投資信託など積極的に事業展開しています。今回は、ゲストに同社の部谷俊雄社長をお迎えし、テラスホールディングス(HD)の桑原明夫社長と「広島これから」を語っていただきました。部谷社長は入社後初めての配属がテラスHD本社最寄りの己斐支店という縁があります。対談では、西広島駅周辺の再開発についても話が及びました。

## ■ 若い世代を応援したい

― 長期的な地域発展を見据え、今最も注目する広島の変化や兆しはありますか。

部谷俊雄社長 (以下、部谷) 人口流出問題でしょうか。広島は製造業中心で発展しました。それが曲がり角にきており、さらなる発展には新たな付加価値をつけることが必要です。地場企業とスタートアップ企業の持つ技術をいかにマッチングするかが産業再生の一つの契機になると見えています。一企業の力ですべてやり切るのが難しい時代に、外部の力をうまく利用できるかという観点が必要になってきます。若者流出の原因もさまざまありますが、「広島飛ばし」と言われるように、コンサートや全国的なイベントがないと…。会場の問題もありますが、大型イベントが広島でも開かれるんだ、と若い方々に認識してもらうことは極めて意味がありますよね。12月に「TGC東京ガールズコレクション」が開催されます。運営側と連携協定を結んでいたことから誘致できました。若い世代の応援を具現化するものと期待します。私がランウエーを歩くことはありません(笑)。突っ込んだ話ですが、広島駅北側にアリーナ新設計画が浮上していますね。もちろんバスケットボールBリーグ一部「広島ドラゴンフライズ」の本拠地ということもありますが、それ以外でどう使うかの判断が問われます。人口問題でも一つ、実は転入の数は昔からさほど変わっていません。転入の数が圧倒的に減っているんですね。近隣県の子たちにどうすれば広島に集まってもらえるかを考えることが肝心の視点です。

桑原明夫社長 (以下、桑原) 私たちの子ども世代は東京、海外などへ出ていきなかなか帰ってきません。広島ってこんなに面白い街だったの、という気持ちを与えられるための仕掛けはしたいと考えています。グループ会社の桑

## 街づくりは、皆が同じ方向を見据えてこそ

原組の祖業である解体業は、街づくりのトップバッターですが、コンテンツを含めた独自の「おせっかい提案」を続けたい、と思っています。

― 地域経済の話でいうと、中四国には競合地銀がひしめいています。ひろぎんHDの多機能化戦略で差別化を生み出せますか。

部谷 私たちの事業の中心が金融であることは間違いありません。お客さまが明確な目的を持ち、そのための資金が必要だというのが従来の流れで、各企業が「設備投資をするからお金がいる」とか、個人なら「家を建てるから」「車を買うから」といった理由でお金が必要です。この流れはもちろん大事ですが、お金のニーズがどこにあるだろう、と顕在化させ、そこから資金循環につなげることが大切になるでしょう。また、他の地銀さんと比べて最も力を発揮できるのは「街づくり」の領域でしょうか。HDへの転換も大きかったですよね。結局、銀行中心だと銀行の話だけになる。HD化して銀行と他の事業を横並びにし、他にも機能があるということを示す必要がありました。

## ■ 人事制度を見直し

― 部谷社長は2020年10月にHDの初代社長に就任しました。単なる組織変更ではない構造の進化に向け、どんな使命を感じていますか。

部谷 第一に、パーパス(存在意義)をいかに具現化するかといい点です。桑原 当社も22年9月にHD化し、以降は新規事業の創出と経営者人材の



育成という2点を掲げています。地域に根差した街づくりを推進するため、今までの既成概念や事業領域をあまり狭義に決めつけず、広くフィールドを作りたいと思っています。

― 経営者人材の育成に関し、ひろぎんHDでは人事制度の抜本的な見直しにより、若手の挑戦を後押ししているそうですね。

部谷 社内では5つのことを従業員にお願いしています。一つは短期思考から中長期思考への転換。二つ目に結果よりプロセスを大事にすること、三つ目として失敗はマイナスではない、ゆえに積極的にチャレンジすること。次に、社内ではなく、社会で何が起きているのかを見よう、と。最後に上から言われてやるのではなく、自分で考えましようというお願いです。徐々にではありませんが、浸透しつつあるのかな。いつも〇



Kuwahara

人と街の歴史を未来につなげる街づくり

- 建築物解体工事
- 環境リスク対策 (土壌汚染、アスベスト対策)
- リサイクル処理

Instagram

本社：広島市西区己斐本町3丁目17-24  
お問い合わせ先：082-272-6006 (代表)





タウンホールミーティングの様子（ひろぎんHD提供）

☑ 言っていますが、社員が1000人いたとして、うち900人がそれを理解できても駄目。まさに1000人全員が理解しなければ組織は正常に稼働しません。私たちが経営陣が現場に赴き、若手社員と話をする「タウンホールミーティング」を年50カ所ほどで催します。若い人たちと接点を持ち、互いに思いをぶつけ合うといったこともします。私が知りたいのは、彼らがどんな思いで仕事をしているのかということ。現場で何が起きているのか知りたい。一方、彼らは経営層の考えも知りたいでしょう。それをつなぐ機会にしています。

**桑原** 会社の課題は、各自の思いを共有しきれていない点ですね。今後の施策として、事業部門の横断やそれぞれの意見を吸い上げるコミュニケーションを取るといった機能を果たすことにあると感じます。どう実践するのがポイントですよ。

―23年4月には100数十カ所ある支店での業績評価制度も廃止されたのですか。

**部谷** 当初はネガティブな意見が多かったですよ。私が「廃止する」と言っ

から社内で大反対も食らい、約4年かけて遂行しました。業績評価があることの弊害は、同じ銀行の支店同士がライバルとなるため情報共有をしない点にあります。自分たちはこういう方法で成功した、だからよそには言わない」と。こういう制度が大嫌いでした。社長就任後に本制度は廃止すると決めていました。人事制度改革も然りです。「ジェネラリスト」だけではなく、専門的な知識を積み上げていく「スペシャリスト」を育成する制度を作りました。自分の好きなことをする方が社員も成長するはずですよ。究極の理想論は、自分がしたいことをして成長を促し、その集合体である組織を形成することでした。

**桑原** うちには貴社ほどの人員はいないので、一人にかかる負担は多くなります。今のお話は理想的ですよ。ただ、それが補完し合えるかという点で、結局誰かにしわ寄せが行ってしまうだろうな…、まだまだ課題はあるな、と思いつながらお聞きしていました。

#### ■西広島駅エリアの再開発

―都市の変化に対して、どういう方向へと街づくりを導きたいのですか。

**部谷** 言うまでもなく、広島には平地が少ない。狭いし地下も使えない。そうなる上にあげるしかない。観光面では宮島と平和公園の二カ所。これで良いのでしょうか？広島市内を回遊してもらうような街づくりが必要です。広島駅と紙屋町・八丁堀エリアをどのようにつなげるか考えます。

**桑原** 私は生まれも育ちも「己斐っ子」なので、今ご縁があつて貴社や、JR西日本さんにお声掛けして、いろいろとおせっかい提案させてもらっています。地元の方のご意見も頂戴しながら、街の未来を一緒に描きたいです。

**部谷** ちなみに私が入社して最初の配属は己斐支店でした。40年前の己斐支店、その周辺エリアの記憶と現在の風景はほとんど変化がありません。  
**桑原** 幼い頃、正月にその己斐支店に



ゾウの貯金箱を持っていきました。あの辺りには駄菓子屋もありました。今も古いお店しか残っていないですよ。ターミナル駅にするためには、5、10年ほど要する覚悟で、その先に何があるのかを楽しみながら貢献したいです。前号の対談（ゲストは広島電鉄・棕田昌夫会長）でも話しましたが、「ひろでん会館」内の食堂でホットケーキや中華そばを祖母に食べさせてもらいました。なじみの深い街なのです。

―テラスHDも西広島駅エリア一帯の再開発に携わりたい思いがあります。桑原組は祖業が解体業で、街を再生するために欠かせない存在でもあります。

**部谷** 貴社には縁が深いんです。私が若い頃に担当しており、桑原組・先代の社長へも一度お会いしています。また、本店営業部本店長時代にも何度も貴社に訪問させていただきました。プライベートでは私の親が残したビルの解体も依頼しました。お世話になりました。

―桑原組は解体実績1万件を超え、広島銀行旧本店建物の解体工事も担当しました。街づくりにさまざまな業態・業種が参画することで多様化も見込め

ます。10年後の広島の街の姿をどう想像しますか。

**桑原** 昔は「札仙広福」と言われていたのに、現在は広島だけが取り残された印象です。福岡はエネルギーシナ街で、「国家戦略特区」指定を受け、再開発プロジェクト「天神ビックバン」のインパクトもあります。30年ほど前に福岡市がインフラに注力していた頃、大渋滞が発生して「大丈夫なのか？」と思いましたが、今振り返ると広島はやはり策が打てていなかったという…。広島駅の再開発など活性化の兆しが出てきた今、ここで踏ん張って本当に魅力のある街づくりを進めなければ、若い子たちが帰ってこない。自ら進んで戻ってくる「ふるさと」に何とかしていきたいですよ。

**部谷** 方向感はいずれもものがあるが、その手段や方法論がまったく異なる。よく話すことなのですが、わが社も広島もいわゆる「平均点以上」なんです。残念なのは、そこで終わってしまうこと。とがったものがないんです。全国的に見ると10数番目にランキングはする。唯一「これ」というものがなかなかない。これが弱点です。それなら、いろいろなものを結びつけるしかないんです。私の任期中にいつてもそう長くはできないですし、橋渡しは

#### ひろぎんホールディングス 会社概要

広島県、岡山県、山口県、愛媛県を主な営業基盤に、銀行業のほか証券、リースなどの金融分野やIT関連などの事業を展開する。2020年10月設立（広島銀行は1878年創業）。従業員数は3689人（25年3月末時点）。



広島銀行旧本店建物（ひろぎんHD提供）

簡単ではない。後任者へ私の路線を踏襲しない、との思いもあります。それは次の人が考えれば良いことです。ただし、ベースとなるパーパスは変えちゃいけない。結局「自社だけ」「行政単体だけ」では何もできません。皆が同じ方向を見据え、一人勝ちではなく進むという思いが大切です。

**桑原** 部谷社長のお話を聞いた後だと「とがった」印象になるかも知れませんが、やはり差別化できる技術集団でいたい。その前提のもと、唯一無二の提案ができる企業でありたいと思います。





建て替え前



建て替え後

写真：アンデルセン・パン生活文化研究所提供

# 解体今昔 ～広島アンデルセン～

広島本通商店街の象徴的存在である「広島アンデルセン」。パンと北欧の文化が融合した空間は、世代を超えて多くの市民に愛され、広島にパン文化を根付かせたとも言えるでしょう。旧店舗はもとも1925年に三井銀行広島支店として竣工した建物を活用したもので、被爆建物としても知られています。

20年、耐震性の問題などを背景に建て替えが決定。歴史的建築の解体という大役を桑原組が担いました。繁華街の中心という立地上、特に気を配ったのは粉じん・騒音対策です。歩行者への安全確保を最優先に、養生や解体順序を慎重に設計し、地域の方々の協力を得ながら進めました。

現在のアンデルセンは、デニッシュモダンな空間に生まれ変わり、ベーカリー、レストラン、カルチャー、パンケトルームを兼ね備え「パンのある暮らし」を提案しています。このように、建物と街、人びとの暮らしをつなぐ「縁」を大切に、私たちはこれからも解体のその先にある未来を見つめていきます。

## ART BORN HIROSHIMA × LIBERA TERRACE

リベラテラスにアート作品を掲示します！

12月より、テラスホールディングスが運営する大型フードホール「グランゲート広島」内イタリアン「リベラテラス」にて、購入可能なアート作品の掲示が始まりました。この企画は、2024年11月にオープンしたギャラリイ兼アトリエ「ART BORN HIROSHIMA（アートボーンヒロシマ）（広島市中区）」とのコラボレーションにより実現しました。アートボーンヒロシマの運営は「広島マツダ」を中核とする全国のマツダディーラーの中で最も長い歴史をもつ「ヒロマツホールディングス」。広島のアンドーグランドアートシーンを盛り上げる場として



浅野堅一さんの作品

注目されています。リベラテラスはその「サテライトギャラリー」として、3カ月ごとに作品を入れ替え展示していく予定です。第一弾では、写真家・浅野堅一さんによる写真作品4点を展示。「フライングアート（純粋芸術）」としての写真作品の制作を中心に活動している浅野さんは、広島だけでなく国内外の展覧会にも参加している方です。今回の4作品の特徴として「肉眼では捉えられない、花の持つ美の側面を、デジタル技術と合わせることで映し出しています」とコメントをいただきました。店内では浅野さんの世界観を感じることができるはずです。展示期間は12月1日から26年2月28日まで。作品はすべて購入可能で、気に入った作品があればご自宅でもお楽しみいただける機会となっています。



浅野堅一さんの作品

このたび、当社ホームページ（HP）の大規模リニューアルプロジェクトが始動しました。数カ月にわたり複数社からご提案をいただき、最終的に中国新聞アドサマに制作を担当いただくことが決定しました。今後は3年ほどの計画で、段階的に進めていきます。リニューアル対象は、テラスホールディングスのHPをはじめ、桑原組、グランゲートのサイトです。既存の会社紹介などの基本構成は活かしつつ、必要に応じて情報の整理、タブの追加、データ解析の導入など、さまざまな方向から見直しを行います。現在はより良い

## ホームページ大規模リニューアル始動

HPづくりを目指し、本社および広島オフィスにて各事業部へのヒアリングを実施中です。現行サイトの課題や理想像について語り合いながら、会社の強みや特徴を改めて見つめ直す時間となっています。このリニューアルは、社内外の声を丁寧に拾い上げながら、「伝え方」や「使いやすさ」の再設計を行う取り組みです。ユーザーにとって魅力的で、会社や社員の活動がより伝わるウェブサイトへと進化させることを目指しています。今後進捗については随時ご報告していきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



広島オフィスでヒアリング



住む人のくらしに合わせて変えられる

そんな住まいの提案をしています

Kuwahara

お問い合わせ  
はこちらから



広島の新築・リノベーション施工会社

■施工管理 株式会社桑原組  
■新築住宅 無印良品の家 広島西店

本社：広島市西区己斐本町3丁目17-24  
お問い合わせ先：082-272-6006（代表）





食器も太陽の光でキラキラ



【以上報告 朝田 真由】

最高気温30度を超え夏日となった2日間でしたが、来場者の「なにか素敵な掘り出し物はないかしら」と宝探しを楽しむ姿が見られました。テントの下に並ぶ食器たちが、太陽の光を浴びてキラキラと輝く様子は、まさに屋外イベントならではの光景でした。

10月11・12日、広島駅周辺にぎわいづくりの一環である「第8回 Rivace（リヴァーチエ）」を開催しました。今回は「蚤の市」として、アンティーク雑貨やアクセサリ、ヴィンテージ生地などを扱う11店舗が集まり、会場は個性あふれるアイテムで溢れました。グランゲート広島からは「ザスタンダードベーカーズ」、広島中央図書館からも移動図書館「ともはと号」が参加し、自由に本を手にとれるスペースや、子ども向けの読み聞かせも実施しました。

★蚤の市で掘り出し物見つけ！  
■第8回リヴァーチエ開催



／ 広報室 SNS も更新してます！ ／



X



Instagram



Facebook

★国際ホテル解体完了

■動画版社報で全編配信

広島ランドマークの一つであった「ひろしま国際ホテル」の解体工事は、2024年6月の着工から1年3カ月を経て25年9月に完了しました。長年親しまれてきたこの建物が姿を消すまでの過程を記録するため、現場に足を運ぶこと20回以上。日々変化する現場の風景、そして職人たちの技術と情熱をカメラに収め続けてきました。動画版社報「TERRACE TIMES+」では、普段はなかなか目にするこのできない解体の全貌を記録・編集し配信しています。この取り組みを通じて、解体とは単なる破壊ではなく、「未来への再生」につながる営みであることを、少しでも多くの方に知っていただければと思っています。

ホテルは今、すでに更地となりましたが、そこに至るまでの道のりには多くのドラマがありました。動画は、シーズン1〜5、そして「完全版」をお楽しみいただけます。完全版動画には在りし日の国際ホテルを知っている方からの温かいコメントも寄せられています。



完全版も大好評



★広島の広告最前線！

■広島広告企画制作賞応募作品展

10月14日、広島県立美術館で開催の「広島広告企画制作賞応募作品展」

を見学しました。同展は、広島広告協会が年に一度、審査・顕彰した広告作品を展示するものです。2024年4月から25年3月にかけて発表されたすべての応募作品、計114点が一堂に会し、来場者はそれぞれの作品をじっくりと鑑賞していました。



金賞作品は香り付きでした

テラスホールディングスの社報「TERRACE TIMES」は「SP広告部門」の「平面ページ印刷の部」に出展作品として掲示してありました。審査員の一人である広島修道大学の矢野泉学長からも「オシャレな広報誌という制作意図が成功している。クールなデザイン」とのコメントをいただきました。



テラスホールディングスの社報



★県内の広報メンバー大集合

■「第17回SunKouKai」開催

10月17日、広島県内の食品業界を

中心とした広報メンバーが集まる研究会「第17回SunKouKai」が広島JPビルディングで開かれました。テラスホールディングス広報室も参加する同会、今年は総勢10社23人が集まりました。JPビルディング内のオフィスや施設を見学したあと、各社の近況報告やテーマ別の討論・意見交換会を行い、夕方からは懇親会にもぎやかに開催しました。

私たち広報室は、今年のSunKouKaiで初幹事を任せてもらい、準備や当日の運営にあたりました。普段の仕事に参加者に理解してもらうため、YouTube動画の撮影風景もお披露目しました。動画版社報「TERRACE TIMES+」は、実はスタジオではなく、オフィスの一角で撮っています。

館内巡回は、JPビル内の企業や施設の協力も得ながら、約1時間にわたり駆け足ながらも要所を見て回ることができました。意見交換会では、事前に各社から集まった質問を中心に、活発な議論が交わされました。参加者はいずれも広報やデザインの最前線で活躍する同会メンバー。日頃抱える課題や、今後取り組んでいきたいテーマについて、共感し合いながら、新たな視点を得られる貴重な時間となりました。最後は恒例の集合写真を撮影し、和やかな雰囲気の中に会を締めくくることができました。ご参加いただいた企業・個人の皆さま、本当にありがとうございました。

【以上報告 編集長】



皆さまありがとうございました！



編集長あいさつ

次号より社報の編集長を後任に引き継ぐこととなりました。在京メディアの報道記者から転職して約1年。第0号から第4号まで、5回にわたりこの社報を企画・編集できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。企画立案にあたっては大きな裁量を与え、自らの視点や想いをもとに、自由に紙面を構成する機会に恵まれたことに深く感謝しております。

社報を通じて、広島経済界をけん引する方々へのインタビュー、また社内の各事業部の取り組みを掘り下げる企画など、多くの出会いと学びがありました。紙面の制約やスケジュールの厳しさなど、制作においては決して容易ではない場面もありましたが、だからこそ「伝える」という営みの尊さを改めて実感することができました。現役の頃よりも「記者用字用語ブック」を確認する回数が増えました…。

社報は、一見すると地味な存在かもしれませんが、しかし、経営理念や会社の方向性を、社内外に丁寧に伝えていくことができる、極めて重要な媒体であると私は考えております。次号からは新たな編集体制となる予定です。経験や肩書きに関係なく、この社報の意義を理解し、真摯に取り組んでいただける方に後任を任せたいと思います。最後になりますが、これまでの発行に際し、ご協力・ご支援を賜りましたすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。

【おこわり】

今号の「社員の推し活紹介コーナー」はお休みさせていただきます。次回の掲載まで、どうぞお楽しみにお待ちしております。



事業部コラム

{ 環境リスクマネジメント事業部 }

丸田 早貴

11月から営業として新しい仲間を迎えました。これにより部署の体制がより一層強化され、来期に向けて営業力の向上を図っていくことが期待されます。さらに、営業強化の取り組みとして、定期的な営業ミーティングを実施し、情報共有と戦略づくりを充実させていく予定です。

また今月より、新たな広島県発注の公共工事が始動しました。安全管理と工程調整が求められる現場ですが、協力会社との連携を図りながら着実に工事を進めていきます。

来期も桑原組は成長を止めず挑戦を続け、地域に貢献できる現場づくりを進めてまいります。



{ 東京オフィス }

中沖 健太

今年2月より着手していた都内マンションの耐震補強工事に伴う解体作業が、10月に無事完了いたしました。今回の現場は、大規模修繕工事と耐震補強工事を同時に進めるという、非常に珍しいケースでした。また、私にとっては初めての耐震工事への参加ということもあり、多くの学びを得る機会となりました。

修繕工事と耐震工事、それぞれの工程を擦り合わせながら進める調整の難しさや、初めて経験した「コア抜き作業」における安全対策の重要性など、現場でなければ得られない実践的な知識と経験を積むことができました。

築年数のある建物であったため、図面と実際の構造が異なる箇所も多く、施工に苦勞する場面もありましたが、関係各所の皆さまのご協力のおかげで、大きなトラブルもなく、無事故・無災害で完了することができました。この結果に、大きな達成感を味わっています。



{ 住空間創造事業部 }

安井 典子

当部署の事業内容は、3Mフィルム施工、戸建て新築、不動産(土地)、リノベーション、空き家管理、木造解体工事など多岐にわたります。事務業務では、各担当者と密にコミュニケーションを取りながら、円滑に業務を進めています。

幅広い分野に携わるため、業界のトレンドや時代の雰囲気を肌で感じられる点が、この環境の魅力の一つです。また、リノベーションに関する図面作成も担当しており、これまでに会社事務所の改修工事や、店舗の新装工事などに携わってきました。

新たな空間を生み出す創造のプロセスは非常に奥深く、完成後の空間が見違えるように生まれ変わる様子は、大きな達成感をもたらしてくれます。この仕事は、人々の心に響き、未来をより良い形へと導くために寄り添う、そんな意義のあるものだと感じています。



{ 経営企画部 }

的 尚也

●**人事総務**：年末調整などの定型業務に加え、今年は給与システム変更も同時期に重なっており、例年以上に業務が集中しています。今回のシステム変更はグループ全社員に関わる重要な取り組みであり、ミスの許されない作業です。正確かつ迅速に処理できるよう、細心の注意を払って対応しています。また、11月17日には新たな仲間が入社しました。新体制のもと、より良い運営体制を築けるよう、引き続き尽力してまいります。

●**経理**：11月は決算月にあたり、経理部門にとって一年で最も慌ただしい時期を迎えています。まずは正確な数値の把握を徹底し、ミスのないよう丁寧に業務に取り組んでいきます。あわせて、会計システムおよび原価管理システムの新システムへの移行作業も進行中です。毎年のことながら、申告までの期間はあっという間です。1日1日を大切に確実に業務を進め、すがすがしい年末年始を迎えられるよう努めてまいります。



{ THE STANDARD BAKERS }

森 未由希

10月は福屋広島駅前店の「パンフェア」に5日間ブースを出店しました。これまでのイベントとは異なり、食品売り場の一角でパンを販売するという形式だったため、パンを目的に来場されるお客さまは少なく、当店やパンを知らない方々に興味を持っていただく必要がある環境でした。

このイベントでは「芋ツッセル」と「カスタードホイップメロンパン」を先行販売し、接客にもさまざまな工夫を凝らして臨みました。限られた時間の中で、いかにして商品の魅力を伝えるかを試行錯誤したことは、大きな学びとなりました。

この経験を通じて、今後も新たなスタンダード 베이カーズの魅力をより多くの方へ発信していきたいと感じています。



{ LIBERA TERRACE }

恵良 麻美

グランゲートは、この9月におかげさまでオープン2周年を迎えました。リベラテラスでは周年を記念して、特別コースをご用意し、たくさんのお客さまにご来店いただきました。ご来場くださった皆さま、誠にありがとうございました。

3年目も、お客さまに喜んでいただけるお料理と心のこもったサービスで、最高のおもてなしができるよう、スタッフ一同さらに努力してまいります。

なお、12月には「クリスマスランチ」をはじめ、21日～25日までの期間限定で「特別ディナー」もご用意しております。皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



Terrace HLDGS?

HP



X



Instagram

